

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 9 月 30 日現在

機関番号：22301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24611010

研究課題名(和文)外国人街の観光地化に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Research on Tourism Development in Ethnic Neighbourhood

研究代表者

丸山 奈穂 (Maruyama, Naho)

高崎経済大学・地域政策学部・准教授

研究者番号：60612603

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、外国人街の観光地化がどのように日本人住民と外国人住民との相互理解、雇用促進、外国人のエンパワーメントといった地域的課題を解決するための手段となりうるかを探ることを目的とした。調査は、群馬県邑楽郡大泉町のブラジル人街と大阪市生野区の韓国人街で行われた。本研究の成果の一つとして、観光地化によって、日本人住民より外国人住民(=マイノリティ)がエンパワーされたことを示唆した点が挙げられる。また、外国人街への訪問は、観光客の異文化理解に対して良い影響を与えることもわかった。一方で、特に大泉町においては、日本人住民の多くは、観光地化に対して消極的もしくは反対であることがわかった。

研究成果の概要(英文)：The goal of this research was to explore whether and how tourism development in an ethnic neighborhood can be a tool to revitalize the local community while promoting mutual understanding between Japanese locals and immigrants and empowering the foreign residents. A Brazilian town in Oizumi, Gunma prefecture, and a Korean town in Ikuno, Osaka prefecture, were chosen as research sites. Face to face interviews, observation, and on-site, self-administered surveys were conducted at the both sites. The analysis indicated that the foreign residents feel more empowered than Japanese residents. It was also indicated that visiting an ethnic neighborhood can foster intercultural understanding among the visitors. However, the analysis also indicated that, particularly in Oizumi town, Japanese residents are not supportive for the tourism development that focused on the Brazilian culture. The findings suggested some theoretical and practical implications.

研究分野：観光学

キーワード：外国人街 住民のエンパワーメント 観光地化 多文化共生 エスニックマイノリティ ブラジル人街  
韓国人街 異文化態度(Ethnic Attitudes)

## 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで一貫して、エスニックマイノリティと観光に関する研究を行ってきた。例えば、2001年から2003年にかけてアメリカ西部に在住する先住民のエスニック文化の観光利用に関する研究（Maruyama 他 2004、2008）を行い、また2005年から2009年にかけては、祖国への観光が、中国系アメリカ人の民族的アイデンティティの形成にどう影響するかについての研究を行った（Maruyama 他 2010、2011）。しかし、エスニックマイノリティと観光に関する先行研究の多くは、自らの研究を含め、移民によって構成された多文化国家で行われており、日本のような「単一民族思想」が根強く残る国におけるエスニック文化と観光のあり方に関する研究はまだ多くなされていなかった。在日外国人増加が予想されるなか、日本でも外国人文化の効果的な観光資源化に関する研究が必要と痛感し、本研究を申請するに至った。

海外における先行研究では、外国人街の観光地化は、貧困や治安の悪化への対策として一定の効果がみられることがわかっている（Santos 2008）。一方で、観光客を惹きつけるにはその文化がいかに周りとは「違う」ということを強調する必要があるため、もともと「外国人街」として地域から分離されていたものがさらに孤立を深める結果になり得る、また「多文化共生」の名のもとに、不平等などの問題が隠されてしまうといった問題点があることが指摘されている（Drew 2011）。しかし、日本国内において、外国人街の観光地化のプロセスや、それがもたらす地域への影響について研究された例は少なかった（姜、安島 2010）。また、在日外国人に関する研究の多くは、外国人の増加によって起こる「問題」を解決することを目的とし

ており、外国人の文化を観光「資源」として活用する方法に関する研究はほとんど成されていなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域政策の観点から外国人街の観光地化を捉え、観光地化がどのように日本人住民と外国人住民との相互理解、雇用促進、外国人のエンパワーメントといった地域的課題を解決するための手段となりうるかを探ることである。同様の研究がまだあまりなされていなかったため、基礎的な知見を得ることを目標とした。調査は、群馬県邑楽郡大泉町のブラジル人街と大阪市生野区の韓国人街で行われた。

## 3. 研究の方法

(1) 外国人街の観光地化に関する論文の精査に加えて、観光地化が始まる以前から現在までの、該当地域に関する新聞や雑誌記事を比較し、地域における外国人の存在に対する説明や意味の変化を追った。また、地域の歴史や国の移民政策も同時に調べた。また、ウォーキングツアーに同行し、街のどの部分がツアーに含まれているか、ツアーガイドはどのように街の説明をするか等を観光客の反応と共に観察した。

(2) 両地域において、キーパーソン（観光協会や自治体職員、ツアーガイド、商店街組合の要職についている方等）を対象に観光地化に関する考えや観光地化による地域の変化についてインタビュー調査を実施した。大泉町では10名、生野区では12名の方にインタビューを実施した。

(3) 主に大泉町において、イベント参加者約30名に対して、自由回答式のアンケート

を実施し、イベントの感想と共に地域の外国人街の観光地化に関する考えを探った。また、生野区では、観光客を対象に「韓国人・韓国文化に対する態度」をツアー前とツアー後に計測し、その変化を探った。

(4) 大泉町と生野区以外の国内の外国人街(新大久保韓国人街、神戸中華街など)を訪れ、見学や資料収集を行った。

(5) 本研究における海外出張として2012年度に米国テキサス州を訪れ、資料収集を行うと共に、類似の研究を実施している研究者との研究交流を行い、以降の研究への協力体制を作った。

(6) (1)から(5)の研究結果を元に、アンケート票を作成し、大泉町および生野区の住民を対象にアンケートを実施した。アンケートはそれぞれの地域を30程度の区画に分け、それぞれの区画内のランダムに選んだ場所をスタート地点とし、そこから一軒置きに訪問する方法(a multi-stage cluster sampling method)を採用した。アンケートは2013年11月から2015年6月にかけて実施され、全体で1,280名(大泉町・日本人住民467名、大泉町・ブラジル人住民183名、生野区・日本人住民468名、生野区・韓国人住民162名)から回収した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果として上げられる内容は多岐にわたる。また、本報告書を執筆している次点で掲載が確定していないものもあり、論文発表が2016年度以降に論文発表がずれ込む見込みのものもある。そのうえで、ここでは量的研究からの調査結果((1)(2)(3)(4))質的研究からの調査結果((5))に大別し説明する。

(1) 本研究の成果としてまず挙げられるのは、住民の「異文化に対する態度」と「外国人街の観光地化への支持」との関連性に関する点である。Maruyama and Woosnam (2015)は大泉町の日本人住民に焦点を当て、特に、「住民が持つブラジル人に対する態度」と「外国人街の観光地化への支持」との関連性について量的研究を行った。アンケート調査の分析結果からブラジル人に対して好意的な態度を持つ日本人住民は、大泉町ブラジル人街の観光地化を、雇用促進およびブラジル人と親しくなるチャンスと捉えていることがわかった。また、回答者の属性もブラジル人街観光地化への考え方に影響を与えることがわかった。

(2) 本研究では住民のエンパワーメントが大きな焦点のひとつであった。地域の住民が外国人街の観光地化を通じてエンパワーされたかどうかを評価するために、Boley, Maruyama, and Woosnam (2016)はBoley(2013)が開発した尺度(RETS)の異文化間における妥当性のテストを行い、RETSが異文化間においても妥当であることを証明した。また、RETSを使い大泉町の日本人住民およびブラジル人住民のエンパワーメントのレベルを評価し比較した(Maruyama, Boley, and Woosnam 2016)。比較の結果、3つの因子のうち2つにおいてブラジル人住民のスコアが日本人住民のスコアより有意に高いという結果が出た。これは観光地化によって、マイノリティ住民がエンパワーされ、地域の社会的な勢力関係(power relations)に変化があったことを示している。また、性別間の比較においても女性のエンパワーメントを示唆する結果が得られた(Boley, et al. 2016)。

(3) 本研究ではRETSとTIAS(Tourism

Impacts and Attitude Scale)を使い、大泉町において、どのように住民のエンパワーメントレベルが観光に対する態度に影響するかについて分析を行った。結果は、日本人住民の観光に対する態度はエンパワーメントのレベルから影響を受けるものの、ブラジル人住民の観光に対する態度とエンパワーメントとの間に関連はないことが分かった。これは、日本人住民のほとんどが観光から経済的な恩恵を受け取っていないため、社会的な要因が強く影響を及ぼすためと考えられる。逆にブラジル人住民は観光業に携わる人の割合が高いため、社会的な要因に関わらず、観光に対して前向きな態度が形成されているといえよう。

また、大阪市生野区においては、大泉町と比較して、マジョリティ・マイノリティ間の境界線が曖昧であることが分かった。そのため、観光に対する態度やエンパワーメントのレベルに関しても、歴史的、また民族的なつながりの違いや観光収入による違いに基づいた分析を行い現在論文執筆中である。

(4) 大阪生野区の韓国人街において、民族間の「接触理論」に基づき、韓国人街を訪れた日本人客の韓国人に対する「態度」の変化を測定した(丸山 2015)。日本人観光客 96 人を対象に、訪問前と訪問後に行ったアンケートの分析の結果、態度を計る尺度にふくまれる項目の半数以上において有意差が見られた。このことから韓国人街への訪問は、観光客の異文化理解に対して良い影響を与えたといえよう。

(5) キーパーソンとの面接調査(質的研究)を通して、地元住民の外国人街観光地化に関する考えを探った。大泉町のブラジル人街においては、外国人街の観光地化が地域コミュニティにもたらす利点と問題点を特に日本人住民の視点から考察した。ナラティブ分析を通して、

日本人住民の多くは、観光地化に対して消極的もしくは反対であることがわかった。理由としては、「企業城下町」としての町のアイデンティティの変化の難しさやブラジル人住民との間の確執などが挙げられる。また町を「ブラジルタウン」として宣伝するという活動をきっかけに、日本人とブラジル人との対立が深まっていることが明らかになった。

また、大阪生野区では韓国系住民(商店街店主など)を中心に面接調査を実施した結果、近隣の日本人ビジネスオーナーとの対立に加え、韓国人街の内部においても町のあり方に関して意見の対立があることが分かった。調査参加者によると、韓流ブーム以前は、生野区の韓国人街は主に同胞相手の卸売りが主なビジネスルートであったのに対し、韓流ブームに伴い観光客が押し寄せるようになったことで店の種類(おみやげ物屋、韓流スターグッズ店など)やビジネスの方法(食べ歩き用の販売など)に変化があったという。それらの変化に対する是非や東京新大久保との差別化に対する考えなど世代間においても違いがあるという。ただ、韓流ブームによって「在日韓国人」に対する社会的な考えが前向きになったという意見も多く聞かれた。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 8 件)

Maruyama, N., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2016). Comparing levels of resident empowerment among two culturally diverse resident populations in Oizumi, Gunma, Japan. *Journal of Sustainable Tourism*, 1-19.

doi: 10.1080/09669582.2015.1122015  
(査読有り)

Boley, B. B., Ayscue, E., Maruyama, N., & Woosnam, K. M. (2016). Gender and empowerment: assessing discrepancies using the resident empowerment through tourism scale. *Journal of Sustainable Tourism*, 1-17. doi: 10.1080/09669582.2016.1177065(査読有り)

Woosnam, K. M., Maruyama, N., & Boley, B. B. (2016). Perceptions of the 'Other' Residents: Implications for attitudes of tourism development focused on the minority ethnic group. *Journal of Travel & Tourism Marketing*, 33 (5), 567-580. doi:10.1080/10548408.2016.1167344(査読有り)

Maruyama, N., & Woosnam, K. M. (2015). Residents' ethnic attitudes and support for ethnic neighborhood tourism: The case of a Brazilian town in Japan. *Tourism Management*, 50, 225-237. doi:10.1016/j.tourman.2015.01.030(査読有り)

丸山奈穂 (2015). 観光を通じた他民族への態度の変化: 大阪生野区コリアタウンへの観光客を例に. *地域政策研究*, 17(3), 59-67. (査読無し)

丸山奈穂 (2015). 日本人住民からみた外国人街の観光地化: 群馬県大泉町ブラジル人タウンを例に. *観光研究: 日本観光研究学会機関誌*, 26(2), 107-115. (査読有り)

Boley, B. B., Maruyama, N., & Woosnam, K. M. (2015). Measuring empowerment in an eastern context: Findings from Japan. *Tourism Management*, 50, 112-122. doi:10.1016/j.tourman.2015.01.011(査読有り)

丸山奈穂 (2014). 外国人街の観光地化と民族関係: 群馬県大泉町のブラジル人街を例に. *地域政策研究*, 17(2), 57-68. (査読無し)

[学会発表 (学会プロシーディングス含む)]

Maruyama, N., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2016, December 4-6). Residents' attitudes towards Tourism: Considering Empowerment and Ethnicity Paper presented at the Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter, At Meiji University (Tokyo, Japan). [Proceedings: pp. 171-174].

Maruyama, N., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2015, June 18-21). Ethnic Enclave Tourism and Empowerment of Residents: The Case Of Brazilian And Japanese Residents In Oizumi,

Japan. Paper presented at the Advances in Hospitality & Tourism Marketing and Management. At Ritsumeikan Asia Pacific University (Beppu, Japan). [Proceedings: pp. 203-208  
<http://www.ahtmm.com/proceedings/2015/2015.pdf>]

Maruyama, N., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2015, December 4-6). Ethnic Neighborhood Tourism and the Dominant Ethnic Group: Qualitative Findings in Japan. Paper presented at the Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter, At Meiji University (Tokyo, Japan). [Proceedings: pp. 168-170]

丸山奈穂 (2013). 外国人街における観光地化: 群馬県大泉町を事例として. 日本観光研究学会全国大会、松蔭大学(神奈川県) [日本観光研究学会全国大会学術論文集, 28, 21-24.]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

丸山 奈穂 (MARUYAMA, Naho)  
高崎経済大学・地域政策学部・准教授  
研究者番号 : 60612603